

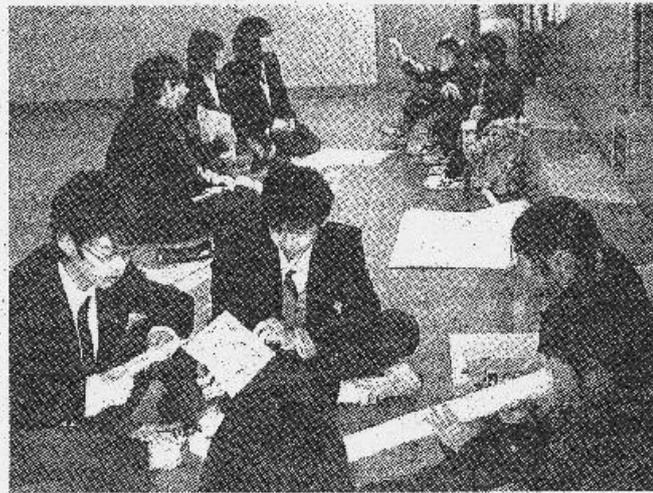
和気あいあいとした授業交流

12月に実施しました九久平小学生との授業交流が

新三河タイムスに掲載されました。

地域の自然見直す

松平高 九久平小児童と里山整備



小学生と授業交流を行う高校生ら12月19日、九久平小で

地域に愛される学校を目指す松平高校（阿知和聖二校長、生徒数589人）では「見直そう松平の自然」を合い言葉に、さまざまな交流活動を行っている。

今年度市内の湿地群が「ラムサール条約」に登録されたことから、「生物多様性」の観点で、2年1組の40人が7月に愛知学泉大の矢部隆教授と豊田自然観察の森の大神孝二所長の講演を聞き、11月に地元の九久平小学校（梅村悦子校長、児童数226人）で5年生児童と共に小学校裏の里山を整備し、12月にも4年

生児童と松平の自然について授業交流を行った。授業交流では、生徒らは児童にわかりやすく伝えるため、紙芝居やクイズ形式で説明し、小学生も巴川や上流の滝川の水生昆虫などを模造紙にきれいにまとめて発表。和気あいあいとした雰囲気で行われた。

授業交流を行った2年の清水貴裕さんは「自分がこのような自然環境の中にいることを改めて知ることができた」、同水越日菜さんは「松平の自然を大事にしようと伝え合えて良かった」と感想を話した。

阿知和校長は「さまざまな活動を地域の皆さんとの支援のもと実施することとで生徒のコミュニケー

ション能力の育成につながっている。今後も地域に愛される学校を目指したい」と語る。

その他にもクラスごとに、松平こども園の園児と一緒に花壇整備や球根を植え付け交流を図ったり、松平交流館や松平橋付近、同校裏里山など地域での清掃ボランティア活動を実施した。

【岡田さち代】